

香川県中学校体育連盟軟式野球競技大会特別規定及び競技上の注意事項

【競技を行うにあたって】

- 1 当該年の公認野球規則・競技者必携及び本規定による。
- 2 使用球及び使用器具は、(財)全日本軟式野球連盟公認のものとする。(J S B B 刻印)
- 3 トーナメント方式とし、各試合は7イニングスとする。
- 4 得点差によるコールドゲームを別紙大会要項の通り適用する。
- 5 総合体育大会・新人体育大会においては延長戦を行わず、特別延長戦を行う。但し、総合体育大会においては、勝敗が決するまで特別延長戦を行う。
- 6 特別延長戦は、次の方法で行う。

特別延長戦は、継続打順とし、前回の最終打者が1塁走者、1塁走者の前の打順の者を2塁走者とし、無死1・2塁の状態でゲームを再開する。1回で勝敗が決しない場合は、以後、継続打順で行う。尚、全試合において勝敗が決するまで特別延長戦を継続する。通常の延長戦と同様、規則によって認められる選手の交代は認める。尚、特別延長戦については、以下の表の通りとする。

項目 大会	特別延長戦
新人体育大会	2イニング行い、決しない場合は抽選を行う。 ただし、決勝戦は勝敗が決するまで行う。
総合体育大会	勝敗が決するまで行う。

- 7 暗天・降雨などによるコールドゲームは、5回以降の場合は試合成立とし、同点の場合とそれ以前の場合は、継続試合とする。

〈 継続試合の再開については次の通りとする 〉

- (1) もとの試合の中断された状況から再開する。
- (2) 両チームの出場者と打撃順及び投手の球数は、試合が中断された時と全く同一でなければならない。但し、規則によって認められる交代は許される。また、選手に不測の事態が生じた場合に限り、他の選手との交代を認める。その際は、欠席届を本部に提出すること。
- (3) もとの中断された試合に出場して、他の選手と交代し、その試合から退いた選手は、再開される試合に出場することはできない。
- (4) 再開の際は、試合開始と同じように整列、あいさつを行う。
- 8 投手の投球制限について、肘・肩等の障害防止を考慮し、次の通りとする。
 - (1) 大会中の1日の投球数は100球とする。また、1週間の投球数は350球とする。
 - (2) 試合中に100球に到達した場合は、その打者が打撃を完了するまで投球できる。
 - (3) 1日100球を超えない範囲での連投は可能とする。
 - (4) ボークを宣告されたにも関わらず、投球した場合は投球数にカウントする。
 - (5) 1週間の投球数350球は、大会の試合における投球数のみカウントする。
 - (6) 投球数の誤りが発覚した場合は、その打者が打撃を完了するまで投球できる。
 - (7) 大会本部において投球数の管理を行うが、チーム内においても投手の投球数の管理および投球障害の予防に取り組むこと。
- 9 天候等による大会の実施の可否、試合の中断及び日程の変更は、大会本部で決定し連絡する。降雨等による順延などの場合、会場を変更したり、ナイターで試合を行ったりする場合もある。
- 10 ベンチは組合せの番号の若い方を1塁側とする。(投手が使用するロジンは各チームで準備する。)
- 11 用具装具については、試合前に審判員または大会役員の確認に応じなければならない。

- 12 試合を行っているチームの行為が原因で、試合続行が不可能となるようなトラブルが発生した場合は、慎重に審議し没収試合とすることもある。本大会は教育的な意義が大きいので、各校・各クラブチーム・役員で本規則が執行されることがないようにフェアプレーに努める。
- 13 選手は、試合中はもちろんのこと、スポーツ選手らしい態度で大会に参加すること。
- 14 応援団については監督又は部長が責任を持つ。
- 15 夏場の炎天下の試合においては、2、4、6回裏終了時に給水のため3分間の休憩時間を設ける。尚、天候や日没時間の関係で、やむを得ず休憩時間を設けず試合を継続する場合もある。

【試合開始前】

- 16 部長及び監督に引率されたチームは、試合開始予定時刻1時間前までに会場に到着し、その旨を大会本部に申し出る。試合開始予定時刻になっても到着せず連絡がない場合は棄権とみなす。交通事情による到着遅延については、大会本部で協議し試合時刻を決定する。
- 17 オーダー交換及び攻守決定は、第1試合は試合開始40分前、第2試合以降は前試合の4回終了時とする。但し、第1試合の前に開会式がある場合や勝ち上がりのチームが続けて試合をする場合は、その都度、本部で決定し連絡する。監督と主将は打順表を持参し、大会役員・担当審判員と打ち合わせをする。
また、部活動として参加するチームの自校教員以外のコーチは、中体連会長に届けた者とし、コーチ証をユニフォームの上着に着用するかネクストラップを着用する。オーダー交換の際、コーチ証は審判及び相手校の監督に提示する。これは大会を通じて行い、相手チームとの確認のためオーダー交換時に提示がないときは、いかなる理由でもベンチ入りを禁止する。
- 18 オーダー交換時に、平服指導者の帯同、けがによる医療用補助具着用の選手の有無を必ず申し出る。尚、監督、コーチの服装は、選手と同じユニフォームとする。教員が平服でベンチに入る場合は、けが等の緊急時の対応以外は、グラウンドに出ることができない。
- 19 次の試合のバッテリーの投球練習については、先発バッテリーに限り、オーダー交換終了後、両軍同一条件を確認しながら試合に差し支えないようにブルペンでの投球練習を許可する（タオル・水筒の持ち込み不可）。
- 20 試合前ノックについては、次の通りとする。
 - (1) サイドノックとする。
 - (2) 監督・部長・コーチ・登録選手の他に3名の補助員をつけて行うことができる。登録選手が補助活動をする際も（球出し・ボールキーパー等）安全面からヘルメットを着用すること。
 - (3) ノッカーは選手と同一のユニフォーム・黒色もしくは白色のスパイクかシューズを着用する。
- 21 ベンチの入れ替わりの時、サイドノックの準備ができるまでの時間にベンチ前でキャッチボールや素振り、準備運動をすることは認める。また、ウォーミングアップ会場が不十分であるため10分間の球場練習を認める。但し、芝生の上でのいかなる打撃（バントも含む）練習は禁止する。また、ウォーミングアップの際のグラウンドの利用の仕方は各球場施設者・管理者の判断に従う。そのため、スパイクでのキャッチボールは自軍ベンチ前で行うことを推奨する。
- 22 試合開始・終了時の礼は両チームが同時におこなう。また、相手チームとは別に審判団に礼をすることはしない。試合後の相手ベンチ前に移動しての礼もしない。

【試合中】

- 23 選手交代の申し出は、監督がベンチから出て審判に直接行う。
- 24 規則適用上の疑義の申し出ができるのは、監督と当該選手とする。この場合は要旨を端的に述べ試合進行や大会運営に支障をきたさぬよう留意すること。

- 25 「監督はファールラインを越えてダイヤモンドには入らない。」は適用しない。指導者としての立場を自覚し言動に留意して、審判の指示・指導には速やかに従う。選手へのハイタッチ等の行為に応じるためにベンチから出ることは禁止する。但し、疑義の申し出のとき、もしくは、中学生の発達段階を配慮し直接監督の指示が必要な際は別とする。
- 26 ベンチ内でのメガホンの使用は監督が1つ使うに限る。
- 27 コーチは、試合前のサイドノックの時以外はベンチから出ないものとする。
- 28 選手以外は、コーチスボックスに入ることはできない。
- 29 規則5.10【原注】「同一イニングでは、投手が一度ある守備位置についたら、再び投手となる以外、他の守備位置に移ることはできないし、投手に戻ってから投手以外の守備位置に移ることもできない」は、本大会では適用しない。これについては、中学校野球では登録人員の関連で適用しないものであるため、これを作戦上の目的など本来の趣旨からはなれて適用することのないように留意しなければならない。
- 30 走者・ベースコーチ・ベンチから、球種などを打者に知らせるための合図・言葉を出すことを禁止する。
- 31 突発事故が起きて臨時代走を用いたい場合は球審に申し出る。審判員が必要と認めた場合は許可する。
- 32 ブルペンでの投球練習、交代の野手のキャッチボールなど必要以外の選手はベンチから出ない。
- 33 次打者席には、必ず次打者選手がいること。投手が投球動作に入ったら素振りなどの動作をしてはいけない。
- 34 バッテリーは、試合進行を早めるために素早くサイン交換を行いテンポよく投球動作に入ること。
- 35 本塁打を打った打者走者にベースコーチが握手を求めたり、ベンチにいる選手が握手を求めたりするために、グラウンドに出たりしてはいけない。
- 36 危険防止のため、次のことを徹底する。
- (1) マスコットバット・バットリング・スライド式バット等を球場に持ち込むことを禁止する。
 - (2) 捕手はレガース・プロテクター・ヘルメット・スロートガード付きマスク（SGマーク入り）、ファールカップを着用する。但し、チームの実情を考慮し、控え選手や指導者が投球練習を受ける場合は、マスク着用のみも認める。
 - (3) 審判員や大会役員から、危険防止やフェアプレーの精神の立場からの指導には従い応じること。
- 37 試合進行や大会運営の円滑化のため次のことに留意する。
- (1) 無用なタイムをとることを慎む。
 - (2) 攻守交代の時は、投手または投手板に一番近い野手がボールを投手板付近に置くこと。
 - (3) 攻守交代は、全力疾走で行う。
 - (4) 守備のボール回しは定位置付近で行う。試合進行上禁止することがある。
 - (5) 打者は、むやみに打者席をはずさず、サインは打者席内から見る。
 - (6) 打者席に入るときの挨拶ではヘルメットをとらない。
 - (7) 先頭打者とコーチャーは、攻撃前のミーティングには参加せず、駆け足で位置に着く。
 - (8) 大会本部が急遽、選手の安全上や運営の進行上から提案した事項が、いかに文章化されていないことでも関係校は協力すること。
- 38 監督が投手のところに行く回数の制限
- (1) 「投手のところに行く」とは、監督がタイムを取ってグラウンドに出て、投手または投手を含む野手が集まっている所で指示を与える状態を指す。投手の方からファールラインを超えて監督の指示を受けた場合も同じとする。
 - (2) 伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手のところに行かせた場合もあてはまる。
 - (3) ボールデット中で改めてタイムを取る必要がない状態の時も、同じ行為であればあてはまる。

- (4) 相手チームのタイム中に投手のところに行くことは差し支えないが、プレイの再開を遅らせた場合は投手のところに行ったことと見なされる。

39 守備のタイムに関わる制限

- (1) 捕手を含む内野手1人以上が、投手のところへ行き守備のタイムをとる回数は、7イニングの試合にあつては3度以内とする。
- (2) ボールデットで改めてタイムを取る必要がない状態の時も、同じ行為であれば回数に数える。
- (3) 特別延長戦となった場合は、2イニングに1度とることができる。
- (4) 集まれるのは投手と捕手を含めた内野手、伝令だけとする。
- (5) 試合進行に関わり、必要でないのにタイムをとることは慎む。

【試合後】

- 40 各チームの部長または監督は、試合終了後に大会本部に連絡し、次の試合日程や連絡事項の確認を行う。
- 41 試合終了の挨拶をもってすべてを終了とする。相手チームへ挨拶は割愛し、速やかにベンチを空ける。
- 42 両チームは、大会本部とスコア照合を必ず行うこと。

【その他】

- 43 テーピングをする場合は、露出する部分については肌の色に近いものを用いる。投手は、投球時にボールに触れる部分と露出する部分については禁止する。
- 44 教員・自校教員以外のコーチ・クラブチームの指導者・生徒・関係保護者は次の事を遵守すること。
 - (1) 応援は、あくまで自チームの応援であつて、野次など相手チームの選手や観客が不快な思いをいただくような言動や試合を妨害するような行為は禁止する。また、教育上好ましくない言動は厳に慎む。
 - (2) 太鼓、メガホン、ペットボトル等の鳴り物やブラスバンドの応援を認めるが、自チームが攻撃している場面での応援とする。自チームが守備側の時は座っていることが望ましい。
 - (3) 投手が投球動作に入れば鳴り物を叩いたり、意図的な大声を出したりする行為は慎む。ベンチ内もこれを適応する。
 - (4) 紙吹雪・紙テープ・個人名を書いたのぼりを使うことを禁止する。
 - (5) 応援席を散らかさず、ゴミは持ち帰り、環境美化に心がける。
 - (6) 拡声器や音響機器の使用は禁止する。
 - (7) 試合の撮影行為は、マナーをもって行う。また、個人情報の保護やトラブル防止の観点からも、選手・指導者・役員・審判等が含まれる動画や写真をSNS等、ネットに公開しない。
 - (8) 球場の都合上、駐車場での混雑が生じた際は、車の誘導等に協力すること。また、事前に応援団は乗り合わせて来場する旨を伝え、運営に協力すること。
- 45 監督等の服装については、次の通りとする。
 - (1) 監督・コーチは選手と同じユニフォームを着用し、監督は背番号「30」コーチは「29」「28」を着用する。また、選手と同じ黒色もしくは白色のスパイク(アップシューズも可)を履くこと。
 - (2) 監督・コーチでない教員がベンチに入る際は、平服(白を基調としたワイシャツ・ポロシャツ)に選手と同一の帽子とする。
 - (3) サングラスは使用しない。事情がある場合は、大会本部に許可を得ること。また、磁気医療ネックレス等も同様とする。

- 46 ベンチに入る全ての者は、学生野球関係者としてユニフォームの着用にあたって次の点を留意する。
- (1) 背番号は、1桁までは原則としてポジションを示す数字であり、全員が続き番号であること。
 - (2) だらしなく着用してはいけない。
 - ① 上着の裾を出さないことはもちろん、たるませずベルトが見えるように着用する。
 - ② パンツの裾はストッキングのふくらはぎの部分が見えるまで上げる。
 - ③ 肩の部分をたくし上げない。
 - ④ ストッキングは、アーチ状のものとし、ソックスとの2重履きとする。カラーソックスやそれに類するソックスの1枚履きを禁止する。
 - ⑤ 医療目的等でサングラスを使用する場合は、試合前に競技役員の点検を受けること。但し、ミラーレンズの使用は控える。
 - ⑥ 監督・コーチ・選手は、学生野球対応の白・黒単色の手袋の使用が認められる。但し、リストバンドを兼ねたようなものは禁止し、手首から先のもとする。
 - ⑦ 上記の事項を守り、学生野球という視点を重視し華美や嗜好的な野球用具の使用は慎む。
 - ⑧ 合同チームのユニフォームは最大限の配慮をする。しかし全国大会では一切の配慮がない旨を理解し、上位大会への参加の見通しを立て、必要な物品の発注や納期の時期等、該当校の責任で計画を立てておく。
- 47 携帯・タブレットなどの情報端末機器（時計も含む）は、ベンチに1台持ち込むことができる。
- 48 大会本部席の出入りは、審判団及び関係者、大会役員、監督のみとする。
- 49 DH制は適用しない。

※ この規定は、年度ごとに必要に応じて見直しを行い改正する。